

西日本豪雨災害に対する坂町の生活影響調査 第2次調査 活動報告

【1日目】10月6日（土）

報告者：中村西支部長

6日は、台風の接近により風の強い一日となりましたが、雨はほとんど降らず、傘なしで一日の調査を終える事ができました。2回目、3回目の会員も多くおられ、大変心強かったです。

私は、みなし仮設住宅の調査に入りました。独居高齢者の多くは、孤独と、今後の見通しが立たない状況に長い夜を過ごしておられました。早急な対応が必要の旨を、調査結果に残させていただきました。

帰りのJRでは楽しい出会いもありました。河口前会長、増本会員と一緒に席に座っていると、同じく調査に参加していた大学4回生が「一緒に座っていいですか？」と声をかけてくれました。国試への不安と社会福祉士として活躍したい希望を持った熱心な方で、元気をもらって帰りました。

二次調査が終わりますが、進捗が気になります。引き続き、参加協力を続けてまいります。

【2日目】10月7日（日）

報告者：三上災害被災者支援委員長

本日、坂町の第2次調査2日目に参加しました。

調査員は総勢60名、広島県社会福祉士会の会員は13名の参加です。

訪問世帯数は坂地区310世帯でした。第1次調査から参加されている方も多くあり、スムーズに調査が進行し時間内に予定通り終了できました。

港がすぐそばあり、漁業関係者の方もおられました。発災後、船を出すことが出来ず漁をしばらく休まざるを得なかった。また、船が流木にあたり故障してしまったなど、家屋とは別に生活に密着した被害が甚大であると感じました。

本日も日中は暑く気温の高低差が激しい気候でした。明日、活動される方はご自愛くださいませ

【3日目】10月8日（月）

報告者：吉田災害被災者支援委員会副委員長

調査員は約60名で、広島県社会福祉士会会員は10名が参加しました。

着々と個別訪問調査が進むなかで、被害の大きい地区、なかには目の前まで土砂が押し寄せながらも、ご近所の家があったおかげで被害をまぬがれたといった複雑な状況について伺う場面もありました。

発災当時の支援状況について確認できたことは、まずはご近所同士の繋がりであったり、家族、親戚、及び職場の仲間の方々が、第一陣で支援に入っておられたということです。

今後の課題（心配事）についてお話を伺う中で、その一つとして、進学を目前にした受験生の子どもたち（中学生、高校生）についての語りが気になりました。受験生を抱えて被災された方々が口々におっしゃれたのが、「子どもたちがこの災害で進学をあきらめてしまうのではないか」という心配・不安でした。住宅ローンに加えて、大規模半壊や半壊でもご帰宅の補修、リフォームにはかなりの費用が必要です。両親が悩む姿を見た子どもたち、特に受験生が、経済面で悩み、遠慮してしまうという悪循環が気になります。

今回は、子どもたちと直接話をする機会はありませんでした。ただ、聞き取りのすぐ隣で一緒に話を聞く子どもたちの瞳や表情を見てしまうと、「進学や挑戦をあきらめないでほしい」と強く思いますし、この子たちのための支援が必要だと感じました。

今回の調査は、坂町の復興支援政策に繋がる住民ニーズ調査と伺っています。この調査に職能団体として関わるができるということは、社会福祉士の専門性が求められているということであり、特にニーズ抽出の技術が、行政の事業計画策定過程に好影響を及ぼすことができるのだと考えます。引き続き、被災地の地域住民の皆様の生活復興に少しでも関わって行ければと思いました。

恐らく、一度調査に入られた方は、再びこの地域へ足を踏み入れたいと願わされると思います。来週末から第三次調査があります。声を掛け合って、赴きましょう。